

事業名称	アートと食で楽しむ益田の歴史プロジェクト		
実行委員会	アートで楽しむ益田の歴史プロジェクト実行委員会		
中核館	島根県立石見美術館		
	住所	〒698-0022 島根県益田市有明町 5-15 島根県芸術文化センター内	
	TEL	0856-31-1860	FAX 0856-31-1878
	ホームページ	http://www.grandtoit.jp/	
構成団体	中世の食再現プロジェクト、公益財団法人しまね文化振興財団、益田市観光交流課、益田市教育委員会文化財課歴史文化研究センター		
事業開始時点の課題分析	益田地域には、中世領主、益田氏の史跡や寺院が数多くあるが、市民や観光客からの認知度は高くない。これを地域学習や観光に活用すべくイベントや商品開発がなされてきたが、それらを結び付けた企画や、総合的に紹介する媒体がなかった。		
事業目的	平成 30 年 (2018) は、益田氏が毛利氏をもてなした饗宴から 450 年目となる節目の年である。これを期に県立文化施設と市役所、民間とが連携して歴史と食をいかしたイベントの開催と、観光コンテンツの開発、情報発信に取り組む。		
事業概要	<p>1 「よみがえる戦国の宴」の開催</p> <p>「益田家文書」(東京大学史料編纂所蔵)と重要文化財「益田元祥像」(島根県立石見美術館蔵)を活用した催し。益田元祥と父、藤兼が毛利元就をもてなした饗宴の献立を、古文書を元に再現した「中世の食」とともに、中世にちなんだ芸能を味わう催し。平成 27 年度から継続しているもので、今回は石見美術館の特別展「中世の益田氏」展の関連イベントとして開催。文化財展示と食と芸能によって地域の歴史を学び体験するプログラムとした。その成果は、次項目「中世を感じられる一品料理」とあわせ、フリーペーパー形式のレポートで公表した。</p> <p>第 1 部 益田家の祝い膳を味わう：解説をききながら再現料理の一部を味わう</p> <p>第 2 部 毛利家ゆかりの驚流狂言を観る：狂言 2 演目上演のほか、歴史・食・芸能にまつわるトーク、狂言ミニ講座、「中世の食」再現プロジェクトが開発した食品の試食会</p> <p>2 「中世を感じられる一品料理」の開発</p> <p>「中世の食」再現の過程で商品化した中世の酒と調味料、商品化検討中の「はむ」(はんぺん)を、市内の飲食店で食材として提供し、「中世を感じられる一品料理」を考案してもらった。そのメニューが食べられるキャンペーン期間を美術館の「中世の益田氏」展と合わせることで、互いを PR した。</p> <p>3 パンフレット制作</p> <p>これまで別々に発行されていた観光案内や土産物紹介、飲食店案内を、歴史という観点から編集し、「歴史と食が豊かで文化的な街」というイメージのパンフレットにまとめた。これを機に、女性をターゲットとした体験型プログラムも考案した。</p>		

<p>実施項目 ・ 実施体系</p>	<p>(1) 地域文化の発信の核となる美術館・歴史博物館 <input type="checkbox"/>ア 美術館・歴史博物館の情報発信、相互連携 <input type="checkbox"/>イ ユニークメニューの促進 <input type="checkbox"/>ウ 地域のグローバル化拠点としての美術館・歴史博物館 <input checked="" type="checkbox"/>エ 地域に存する文化財を活用した地域共働の創造活動や地域の魅力の発掘・発信 (2) あらゆる者が参加できるプログラム及び学校教育や地域の文化施設等との連携によるアウトリーチ活動 <input type="checkbox"/>ア 小・中・高等学校と連携した地域文化の担い手の育成 <input type="checkbox"/>イ 大学等と連携した国内外で活躍する文化人材育成プログラムの開発 <input type="checkbox"/>ウ 社会人ほか多様な対象者のための学習講座の実施 <input type="checkbox"/>エ 障がい者の芸術活動支援・鑑賞活動支援等の事業 (3) 新たな機能を創造する美術館・歴史博物館 <input type="checkbox"/>ア 観光・まちづくり・国際交流・福祉・教育・産業等他分野との連携・融合による活動 <input type="checkbox"/>イ 文化財の新たな保存管理・活用の手法の開発</p>
<p>施後の 成果・効果等</p>	<p>1. 「よみがえる戦国の宴」の開催 効果：第2部来場の137名に「中世の食」再現プロジェクトが開発した食品を試食してもらった。 2. 「中世を感じられる一品料理」の開発 参加店舗＝8店舗、開発メニュー＝11種 3. パンフレット制作 『ミステリアス！益田』 5,000部発行 1～3全体を通して、小規模な飲食店に事業の参加を促す困難はあったが、商工会議所や観光協会とも連携し、地域活性化という目的に賛同いただける店舗を集めることができた。美術館にはある程度の集客があり、文化的なテーマを打ち出せる施設という認識を広めることで、地域振興の核となり得るというモデルケースとなった。</p>

【事業実績】

歴史×食×芸能 「よみがえる戦国の宴」

2018年12月15日（土）

第1部 益田家の祝い膳を味わう（限定40食） 参加者40名



第2部 毛利家ゆかりの驚流狂言を観る 参加者 137名

オープニングトーク（米本太郎、中司健一、岩井賢朗、川西由里）

狂言「鬼瓦」（大名=米本文明、太郎冠者=伊藤 隆、後見=池田幸枝）

幕間 ホールホワイエにて「はむ」「煎り酒」「与三右衛門」の試食会

狂言体験（米本太郎）

狂言「棒縛り」（主=土村廣隆、太郎冠者=米本太郎、次郎冠者=米本文明、後見=新保秀子）



狂言「棒縛り」



益田「中世の食」再現プロジェクト発 食品試食会

歴史×美術 コレクション展「中世の益田氏」 会期中観覧者=3,754名

2018年11月7日（水）～12月17日（月） 会場：島根県立石見美術館 展示室 B

〔出品作品〕絹本着色 益田元祥像（狩野松栄筆・重要文化財）／茶麻地緞り織胴服／茶麻地裁付袴／金箔押十二間阿古陀形筋兜／継ぎ合せ麻地陣羽織／益田家文書「益田藤兼・同元祥安芸吉田一献手組注文」（レプリカ）



歴史×食 中世益田を感じられる一品料理

2018年11月7日（水）～12月17日（月）

参加店舗：市丸／紺家寿司処みのり／すすみや／鉄板ダイニング Taishi／暢ペ／Foods×Bar saku／Lemonade

参加者の声

【よみがえる戦国の宴・第1部】

タイムスリップしたようで貴重な体験でした。味付、昔は濃かったのですね。手間かけたお料理でした。(60代女性)

【よみがえる戦国の宴・第2部】

コミカルでとてもおもしろかったです。セリフをくり返し合うことで、うまれるリズムカルな雰囲気を楽しかったです。(30代女性)

【中世益田を感じられる一品料理】

すすみやで「はむ」のおでんを食べました。はんぺんよりもしっとりとした触感でよく味が染みている、とてもおいしかったです。中世の食の再現であるだけでなく、おでんのために新しい食材を開発したかと思われるほどマッチしていました。(40代女性)

Taishi、紺家、市丸、Lemonade いただきました。店ごとに違う味や食感が楽しめて、「はむ」は面白いと思いました。煎り酒も独特の風味で美味しいです(30代男性)

【中世益田を感じられる一品料理・提供店舗】

「はむ」をこの企画でしか食べたことがない方が多かったので、珍しく、フリットにして出したら喜ばれました。食材として流通するようなら今後も続けたいです。「煎り酒」の風味は燗酒によく合うのでだし巻は好評で、すでに定番メニューに入っています。(暢ペ 店主)

主な制作物

「よみがえる戦国の宴」と特別展「中世の益田氏」「中世益田を感じられる一品料理」共通チラシ(2つ折り)



「よみがえる戦国の宴 2018 レポート」(3,000部、フリーペーパーとして美術館ほか公共施設で配布)



観光パンフレット「ミステリアス！益田」（5,000部、観光案内所、飲食店、観光施設等で配布）

